

主体的に学びに向かう生徒の育成

一自ら探究したい課題の設定と、他者の考えに触れ自らの考えを深めたり広げたりする、協働的な学びを通して一

特別研修員 社会 武藤 光道(中学校教諭)

実践事例 第1学年 (1) 世界のさまざまな地域 アジア州

生徒の実態

- 与えられた課題について取り組める生徒は多いが、自ら課題を見付けたり解決したりする生徒は少ない。
- 他者の考えに触れ、自身の考えを深めたり広げたりできる生徒は少ない。

教師の願い

- 「なぜ」「どうして」などの課題意識をもって、生徒自ら探究したい課題を設定し、課題解決に向けて探究してほしい。
- 他者との交流を通して、自分の考えを深めたり広げたりしてほしい。

本時のめあて：「気になるシート」を基に、友達と交流しながら自分の課題を設定しよう。
〔1単位時間：単元のまとめとしての位置付け〕

【手立て①】「気になるシート」を活用した、生徒自ら探究したい課題づくり

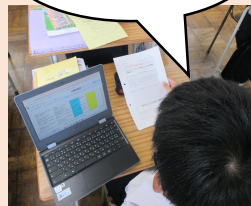
「気になるシート」への蓄積

- 生徒自ら疑問に思ったことを、毎時間「気になるシート」に入力・蓄積して、探究したい課題の設定に活用する。

※クラウド型表計算アプリを使用

探究したい課題の設定

一番気になる疑問を
課題に設定しよう。



生徒が設定した課題の一例

- ・中国の沿海部は、経済特区を中心に発展してきたが、内陸部はどのように経済発展をしているのだろうか。
- ・ソウルは一極集中しているが、他の地域とどのような違いや影響があるのだろうか。
- ・低賃金で働いている人の暮らしは、どのような面で不自由を感じているのだろうか。

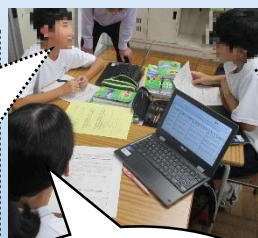
気になった課題について、早く探究していきたいな。



【手立て②】 自ら探究したい課題に対する他者との意見交流を通じた協働的な学び

グループで交流して、友達からのアドバイスを基に、自分の課題を再設定してみましょう。

中国の内陸部と沿海部の収入の差の変化も調べてみるのもいいかもね。



なるほど。沿海部と内陸部の経済発展の状況だけでなく、昔と今の収入の「変化」も調べると、よりよい課題になるかもね。

私も友達からのアドバイスを取り入れてみよう。

設定した課題に対する「予想」と「探究していくために必要な情報」を考えてみましょう。

低賃金で働いている人々の暮らしを知るためには、各国や地域の収入の差や就業率が分かる情報が必要かな。



よりよい課題にするためには、以下のポイントを考えて、アドバイスしてみよう。

- ① 社会的な視点(変化・相違性・課題と解決策等)
- ② 単元を貫く課題との関連

共通性以外に、「一極集中を防ぐための取組や多くの地域が同じような生活をしていくために、国はどのような対策をしているか。」という課題にすればよりよくなるかもね。



	課題設定①	社会的な視点	課題設定②	社会的な視点
生徒A	ソウル周辺に一極集中しているが、一極集中している他の地域とどのような違いがで、どんな影響があるのか。	相違性	ソウル周辺に一極集中しているが、一極集中している他の地域とどのような違いがで、一極集中しているところはしていない所を支えるために活動をしているのか。	相違性 背景と解決策
生徒B	なぜ、貧困層が生まれてしまったのか。	背景	貧困層の人たちはどんな生活をしていて、経済成長が進んでいるところに住んでいる人の生活とどのように違うのか。また、国は対策をとっているのか。	相違性 背景と解決策

気になるシート

単元の振り返り

○授業の中で、毎時間自分が疑問に思ったことや調べたいことを「気になるシート」に入力していったことで、自分の探究していきたい課題を設定することができました。これから必要な情報を集めて、課題について調べていきたいです。

○友達からのアドバイスを受けて、社会的な視点が増えたり、新しい考えに気付いたりすることができました。今後は、他の教科でも友達からのアドバイスを受けて、自分の考えに取り入れていきたいと思いました。

目指す生徒像 既習内容を基に自ら課題を見だし、課題解決に向けて探究できる生徒

成果

- 生徒が単元の学習を通して疑問に思ったことを、「気になるシート」に毎時間蓄積させたことにより、生徒の学びや、気付き等を把握することができた。
- 生徒が疑問に思った課題を設定したことで、主体的に学びに向かう生徒の姿が見られた。
- 他者との意見交流の場を設定したことにより、生徒が新たな考えに気付いたり、他者と意見を共有できたりした。

課題

- 他者へのアドバイスが苦手な生徒に対する、教師の支援を明確にしておく必要性を感じた。
- 個の学びを更に深めさせるためには、学習活動を通して学んだ社会的な見方や考え方について、生徒に整理させる時間を十分に確保することが必要であると考える。